

2017年4月27日

第 682 回 本委員会の主要議題と概要

日本化学繊維協会

日本化学繊維協会（会長 日覺 昭廣 東レ株式会社 代表取締役社長）は、本日 11 時より第 682 回 本委員会を開催しました。

主要議題およびその概要は以下の通りです。

1. 第 11 回アジア化繊産業会議について

第 11 回アジア化繊産業会議は、インド合繊協会が開催を担当し 4 月 13、14 日、インド・ムンバイのトライデントホテルにて行われました。

- ・本会議には、9 カ国・地域（日本、中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、パキスタン、チャイニーズ・タイペイ、タイ）から、約 230 名が参加、日本からは日覺化繊協会会長、伊藤同副会長、榎原同副会長、上田同副会長をはじめ 41 名が参加しました。
- ・今回の会議のサブテーマは、「低原油価格の時代の化繊産業の持続可能な戦略」であり、各国・地域からの化繊産業の現状報告のほか、中長期的な需給見通し、合繊原料問題、通商問題、用途開拓・製品開発、環境・省エネなどアジアの化繊産業を取り巻く様々な課題について 7 つの特別テーマ報告と活発な議論が行われました。
- ・また、イラニ繊維大臣などインド政府高官からのインドの繊維産業の成長性に関する 3 つの特別報告、2 つの特別アジェンダ（原油価格動向、循環経済に向けての持続可能な課題）がありました。
- ・本会議では、アジア化繊産業連盟のもと標準化作業委員会が正式に発足、アジア化繊産業の高度化を踏まえ、標準化の意識向上、人材育成、情報提供/共有などを目的としており、今後、アジアの化繊産業が同委員会を通じて標準化活動に取り組むこととなりました。
- ・会議の 2 日目には共同コミュニケが採択され、次回（第 12 回）アジア化繊産業会議はインドネシア化繊協会の主催により、2019 年 4 月に開催される予定となりました。

2. 日仏繊維協力 WG について

日仏繊維協力 WG の活動の一環で、2月6日～10日の5日間、フランスとイタリアに派遣した代表団の報告がありました。

- ・代表団には、化繊協会（18名）、繊維学会（1名）の計19名が参加しました。
- ・フランスとの交流：フランス繊維産業連盟と両国のスマートテキスタイルの開発状況について情報交換した他、フランスの有力なユーザー企業5社（サンゴバン社（建材）、ブイグ社（土木建築）、ケリング社（アパレル）、チュアンヌ社（医療・ヘルスケア）、フォレシア社（自動車部品））とBtoB会合を開催し、日本の先端繊維素材を紹介しました。
- ・イタリアとの交流：日仏に続く国際連携の試行的な取組みとして、2月6日にピエラ繊維産地を訪問しました。ピエラ産地は、高級毛織物の産地として有名ですが、最近は高級品だけでなく、機能品にも関心を持っているとの事前情報に基づき、日本の先端繊維素材とピエラ産地の加工技術のマッチングによる新市場開拓のコンセプトで交流しました。この他、フィアット社（自動車）、アチェルビス社（スポーツ・レジャー）といったイタリアを代表するユーザー企業とBtoB会合を行い、日本の先端繊維素材を紹介しました。
- ・今後の予定：日仏両国が共通して関心の高いテーマとして「スマートテキスタイル」を取り上げ、引き続き、具体的な取組みの可能性について協議していくこととしています。

3. 最近の通商・繊維貿易動向について

「最近の通商・繊維貿易動向」について概要が、以下の通り報告がありました。

- ・2016年の世界の繊維品貿易の概要について報告がありました。2015年の世界の繊維品貿易は前年比4%減の約7100億ドルと推定され、2年連続の減少となりました。中国をはじめ主要国の繊維品輸出は伸び悩みました。こうした中、アセアンを軸とした貿易フロー等、FTAのもとでの繊維品貿易は堅調に推移しました。

<本件についての問い合わせ先>

担当：日本化学繊維協会 技術グループ 兼 業務調査グループ 川名 (03-3241-2312)

以上